

11月15日「富士市ユニバーサル就労支援センター」

(静岡県富士市)

■就労支援の対象は働きづらさを抱えた全ての方

富士市では平成26年に障がいを持つ方の家族が市長へ「ユニバーサル就労に積極的な企業の誘致及び支援を求める要望書」を提出した。また、以前から就労支援に関心を寄せていた議員を中心に議員連盟を発足し、市へ事業提案書を提出した。平成29年に市議会発議による「富士市ユニバーサル就労の推進に関する条例」を全国で初めて施行し、同年に富士市ユニバーサル就労支援センターが開設された。就労支援の対象は、働きづらさを抱えた全ての富士市民である。同条例には、市、市民、事業者等の責務として、就労支援への理解や配慮、施策への協力を努めることが記されており、全市をあげて推進する事業となっている。

■相談から就労までをワンストップで対応した支援体制

令和2年の施設再編で相談窓口が一本化された。これにより就労困難者がすぐにつながる仕組みとなり、市民目線の支援が可能にな



就労支援センター相談窓口にて

ったことから、令和2年度から就業者数が増加している。

■一人ひとりに合わせたオーダーメイドの就労支援

支援対象者の特性を把握し、就労準備、職場見学、就労体験など、段階的な就労支援を行っている。就労準備は、生活リズム、食生活、家計管理の改善指導のほか、基礎マナー研修、履歴書作成支援も行う。職場見学、就労体験、さらに雇用面では同条例の理念に賛同した企業が協力している。このような協力企業には、支援員が事前に情報共有を行うため、支援対象者との安定したマッチングにつながっている。雇用までつながった企業からは「今までの選考方法では見逃していた人材に出会うことができました」という声も寄せられている。事業開始から7年、市全体で就労支援に取り組んでいる姿を学ぶことができた。

11月16日「子ども屋内運動遊び場おしろらんど」

(山梨県甲府市)

■子どもの体力低下から始まり、屋内運動遊び場の設置へ

平成30年、甲府市の子どもたちの体力、運動能力が全国平均を下回っていた。このことから、山梨市、山梨大学、民間事業所が協働で実証事業を行い、これらの改善には多様な動きの出現種類、回数が必要という結論に至った。そのため、遊びを誘導するプレイリーダーの育成と、運動遊びの環境が整った場所が必要であることから、令和3年に子ども屋内運動遊び場おしろらんどが開設された。

■子どもの興味を引き出すプレイリーダーの存在

プレイリーダーとは子どもの興味や関心を引き出す運動遊びの先導役で、視察時点で23人が在籍している。9割が女性で職業別では主に学生、主婦が活躍している。



ボールプールとボールリングエリア

■保護者にとつての交流と相談の場

プレイリーダーの声かけと見守りによって、子どもだけでなく保護者にも変化が起きてい



多様な形を組み合わせたブロック遊び

る。当時内気だった子どもがおしろらんどに通ったことで活発な一面を見せ始め、友達が増えるようになった。遊ぶ子の姿を見て保護者も家で子どもと一緒に遊ぶなど前向きな変化が見られた。子どもを安心して預けられる場合は、保護者同士が話をする息抜きの場にもなっている。また、保健師が派遣され、子育て相談窓口としても機能している。当初は子どもの体力、運動能力の向上が目的だったが、保護者にとつても必要な場であり、相談窓口のあり方を考えさせられる機会となった。

社会文教常任委員会行政視察